

北海道原水協ニュース

原水爆禁止北海道協議会 Eメール hokkaidogensuikyo@pearl.ocn.ne.jp

電話 011 (747) 7557 fax 011 (747) 7537 発行 /2022年 6月 7日

日本政府を変えよう 私たちの声と行動で

平和行進は8月の広島、長崎めざして “核兵器つかうな！ 核兵器なくそう！”

■日本海南コース

・ 北斗市平和行進

日本海南コースの最後は北斗市の平和行進です。6月3日（金）市内郵便局本局の前で、18人が参加してスタンディングを行いました(写真)。色とりどりの風船、「地球に核兵器いらない」の横幕や、「世界にひろめよう 憲法9条」「核兵器いらない」などグッズに思いをこめて、通行する車の人たちに核兵器廃絶を訴えました。



■幹線・室蘭平和行進 ～集会・行進・スタンディングと署名行動

5月29日（日）風は強かったが天気にもまれて10時から中島町向陽公園で、7団体32人が参加して平和行進の集会を行いました。登別の佐々木久美子議員から引き継ぎ、室蘭民商の知気副会長があいさつ、各団体が横断幕や宣伝を行いました。

集会のあと、例年よりは短い周回コースで行進。風で帽子が飛ばされるハプニングもありましたが、平和行進の横断幕や各団体の桃太郎旗が風になびく、久しぶりの行進でした(写真)。行進終了後は、アイランド前でスタンディング行動と署名行動、盛りだくさんの平和行進です。

翌日30日（月）は室蘭市役所を訪問し、募金、署名と折り鶴平和パナントの記名を要請しました。

室蘭から引き継いだ伊達原水協は31日（火）午前中に自治体訪問、記念館前でスタンディング行動。洞爺湖町実行委員会は、31日（火）午後役場を訪問、午後3時にJR洞爺駅前と、翌日6月1日（水）洞爺水の駅で核兵器廃絶を訴える宣伝行動に2団体13人が参加しました。2日（木）午前中は豊浦町訪問、午後から長万部原水協は元町広場でスタンディング・署名行動を行い、そのあと役場訪問しました。3日（金）原水爆禁止八雲実行委員会は、八雲町役場を訪問のあと、音宣伝を行いました。

■幹線・森町平和行進 ～町内6か所で宣伝行動

6月4日（土）午前10時から2時間、青い空の下でJR駅前をはじめ町内6か所で平和行進の宣伝行動を行いました。署名を頑張っていると紹介された瀬戸康子さん(80歳)は、「皆さ～ん、核兵器使ったらだめだと思いますよね。子どもたちや孫たちのために、皆さんと一緒に核兵器をなくしたい。今度、一人一人に署名お願いします。皆さん、よろしくね」と呼びかけました(写真)。団地ではバルコニーからしっかり聞いて手を振る方や、車からの反応もいっぱい。

軽トラックに風船を飾りポテッカーや横断幕をぐるーっと張り付け、ウクライナカラーのバンダナを首に、行進フラッグを手に、例年より参加者は少なかったけれど、元気のでる行動になりました。「来年こそ歩きたいね」と参加者から声が上がりました





■幹線・七飯町平和行進

4日(土)午後1時にJR大沼公園駅前で森町から引き継ぎ、消防署前から七飯町役場まで、平和行進のうちわを手に平和行進の横断幕と七飯原水協の旗を先頭に参加者30人は行進しました(写真左)。

役場前の七飯原水協集会には、土曜日で役場は閉庁ですが行進団を杉原太七飯町長が出迎えました。舟見洋三七飯原水協代表理事が「平和めざす運動を町政と一緒に進めたい」と開会あいさつ。

杉原町長は「核兵器のない世界を願う心はひとつ。核兵器廃絶の平和宣言の町として皆さんとさらなる協力をしていきたい」と話しました(写真右)。

役場から引き続き歩いた参加者は、大川コミュニティーの『核兵器をなくし平和を願う町』(核兵器廃絶平和宣言塔)の前で、函館原水協に引き継ぎました。



■北海道内の平和行進 幹線北海道～東京コースと網の目6コースは函館に集結しました。

午後4時から市内の商店街で終結集会・スタンディングと署名(写真上)が行われました。

伊藤愛函館原水協事務局長はじめ、佐々木正美函館地区労連議長、安井徹函館平和委員会事務局長、本間勝美日本共産党函館地区委員会副委員長が、次々とリレートークしました。北海道原水協の嶋田は、「核共有、憲法改悪とんでもない。核兵器使うな!核兵器なくそうの声を横断幕に託して、8月に広島に届けます」と訴えました。

「被爆者とともに 私たちの声と行動で 核兵器をなくそう」「市民と野党の共闘で 核兵器禁止条約に参加する政府を」の横断幕、プラカード「核兵器をなくそう」「憲法9条守ろう」「侵略戦争反対 ロシアはすぐ撤退を」「福島を忘れるな」などなど、40人の参加者は思いをこめてスタンディングしました。

■北海道～青森県 引継集会

6月5日(日)11時から青森市平和公園(時計塔前)で、2022年国民平和大会の引継集会が行われました。通し行進者はいませんが、北海道原水協の嶋田が、北海道からの引継、平和行進の横断幕をもって参加しました。

集会は青森センター合唱団の歌声でスタートしました。青森県被爆者の会からは激励のメッセージが紹介されました。県内の被爆者は37人、平均年齢86歳と高齢化しています。コロナ禍の状況もあるが、ヒバクシャが集会に直接参加できないことに、参加した嶋田は被爆77年の現実をかみしめました。

集会終了後、平和公園を出発して、新町通りを経て、県庁までのいつものコースを行進しました。参加した団体は全司法や全労働、県国交はじめ年金者組合、国民救援会、新婦人、民商、民医連など、また子どもたちも参加する賑やかな集会(写真)・行進でした。参加者は150人。

